

共用品推進機構だより 2016年07月01日 (13)

## 目次

### (60) 共用品推進機構関連記事

#### ▽「ものづくりのアイデアコンテスト募集／点字毎日活字版」

### (61) 賛助会員ニュース

#### ▽「服薬時間、ロボがお知らせ／日立システムズ、クラリオン」

### (62) 製品関連記事

#### ▽「高齢者向け総菜手軽に／キューピー」

### (63) その他、各種関連記事

#### ▽「障害者、週20時間未満OK／ソフトバンク」

### (64) 新刊紹介

#### ▽『発達が気になる子への読み書き指導ことはじめ』

#### ▽『学校でのICT利用による読み書き支援

合理的配慮のための具体的な実践』

#### ▽『ドクターと教室をつなぐ医教連携の効果 第3巻 発達障害の子どもたちを支える医教連携の「チーム学校」「症例別」実践指導』

---

### (60) 共用品推進機構関連記事

#### ▼「ものづくりのアイデアコンテスト募集／点字毎日活字版」

共用品推進機構と日本点字図書館（日点）は、視覚障害者を対象に「『とおきのおきアイデア』コンテスト」への参加を呼びかけている。目が見えな

い・見えにくい人にも使いやすい製品づくりのためのヒントを集めるのが狙い。

「こんなモノがあれば便利になるかも」といった素朴な考えも歓迎している。一般の部と盲学校の部でそれぞれ優秀者を表彰する。募集期間は9月5日まで。

募集するのは「こんなモノがあれば、今不便なことが便利になり、もっとこんなことができるようになる」といったアイデア。既にある製品の改良案も対象とする。

盲学校の部（盲学校に通う18歳までの児童・生徒。学級や学年のチーム、家族との応募も可能）と、一般の部（一般校に通う18歳までの児童・生徒。18歳以上の盲学校生徒を含む）で募集し、それぞれ上位入賞者を表彰する。表彰式は11月、東京都墨田区で開かれる「サイトワールド2016」の会場を予定している。

一般の部は、メール、郵送、ファクスのいずれかで応募する。アイデアの名称、対象者、詳しい内容、アピールポイントのほか、氏名や連絡先など必要事項を書く。

（点字毎日活字版 6月16日2面より抜粋）

---

## （61）賛助会員ニュース

### ▼「服薬時間、ロボがお知らせ／日立システムズ、クラリオン」

日立システムズとクラリオンは23日、高齢者が薬を飲み忘れていないかを家族や介護事業者が遠隔地からリアルタイムで把握できるサービスを茨城県笠間市で実証実験したと発表した。4月から地域の要介護者の情報を管理する笠間市のシステムと連携した。自宅介護での薬の飲み忘れや誤飲防止につながるという。

昨年10月から販売している「服薬支援ロボ」を活用した。薬を飲む時間になるとセンサーがロボの前を通過した高齢者に音声で呼びかける。ボタンを押すと、1回分の服薬量が入ったケースを出す。インターネットを通じて日立システムズのクラウドに服薬時間や量のデータを蓄積、介護事業者や家族がスマートフォン（スマホ）などで確認できる。

（日経産業新聞 6月24日7面より抜粋）

---

## (62) 製品関連記事

### ▼「高齢者向け総菜手軽に／キューピー」

キューピーはカット野菜と調味料がセットになった「キット惣菜」で、高齢者施設の需要を開拓する。必要な材料が全てそろっているため簡単に調理でき、老人ホームや介護施設などでの利用拡大を見込んでいる。従来は販路を限っていたが、新たに老人ホームなどに直販する。

キット惣菜は2013年から販売している商品で、「野菜いため」や「麻婆豆腐」など数種類ある。手間をかけずに総菜ができるのが特徴で、主に高齢者や共働き世帯の利用を想定している。

キューピーはこのほか、タマゴの加工品でも高齢者施設向けに商品を拡販する。認知症の施設で、タマゴの加工品「つぶしておいしいたまごのサラダ」を使った調理体験を実施。好評だったため、今後も調理体験会を継続実施することにした。

同商品は袋のなかにゆで卵2個と、マヨネーズベースのドレッシングが入っている。卵を袋ごとつぶすと簡単に卵サラダが出来上がる。

タマゴをつぶす作業が簡単な調理体験になり、認知症を患う利用者のリハビリにもなるという。

(日経産業新聞 6月28日18面より抜粋)

---

## (63) その他、各種関連記事

### ▼「障害者、週20時間未満OK／ソフトバンク」

ソフトバンクは5月、障害者を雇うことを目的にした「ショートタイムワーク制度」を取り入れた。障害者の法定雇用率は週20時間以上働くことが条件のため、長時間働けない人の就業はより難しい。短い時間でも任せやすく、精神的な負担になりにくい仕事を洗い出し、週20時間未満でも雇う。発達障害の人ら10人が働く。先行導入した部門の例を参考に、年末までに20人に増やす。

(日経産業新聞 6月30日23面より抜粋)

---

#### (64) 新刊紹介

##### ▼『発達が気になる子への読み書き指導ことはじめ』

習得の鍵は「読み」「書き」を連動して学ぶこと。発達が気になる子の読み書きを上達させる作業療法のメソッドを紹介する。教材（15種類・130シート）を収録したCD-ROM付き。

著：鴨下賢一（かもした・けんいち）

発行：中央法規出版

本体価格：2200円（税別）

ISBN：978-4-8058-5274-3

##### ▼『ドクターと教室をつなぐ医教連携の効果 第3巻 発達障害の子どもたちを支える医教連携の「チーム学校」「症例別」実践指導』

発達障害の子どもへの対応を研究している教育研究団体「TOSS」。そのメンバーである教師たちが、ADHDやアスペルガーなどの症例ごとの対策と指導法や、発達障害の子どもたちを「システム」で支える取り組みを紹介する。

監修：宮尾益知（みやお・ますとも）

企画：向山洋一（むこうやま・よういち）

発行：学芸みらい社

本体価格：2000円（税別）

ISBN：978-4-908637-16-2

##### ▼『学校でのICT利用による読み書き支援 合理的配慮のための具体的な実践』

ICT（情報通信技術）で発達障害のある児童生徒・学生の学びをいかに支えるか。「読み書き等に困難のある児童生徒自身」が教室内でICTを使うことで通常のカリキュラムに参加するための理論と事例を紹介する。

編著：近藤武夫（こんどう・たけお）

ほか著：近藤武夫（こんどう・たけお）

発行：金子書房

本体価格：1300 円（税別）

ISBN：978-4-7608-9546-5

---

（編集後記）

4月にニュージーランドのウェリントンで開催された IEC（国際電気標準会議）の AAL（Active Assisted Living：自立生活支援サービス）SyC（システムズコミッティ）という委員会に参加しましたが、私は AAL の委員会で使用する専門用語のプロジェクトチーム（PT）のメンバーになっております。

この専門用語の原案作成が7月中旬には終了し、CD（委員会）投票が開始される予定です。8週間の投票期間を経て承認される予定で、その次は ISO（国際標準化機構）の DIS（国際規格案）投票にあたる CDV（投票用委員会原案）投票に向けて作業していくことになります。（松岡光一）

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>